

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

イエスは「天の国」を説明するために「畑に宝が隠されている」や「商人がよい真珠を探している」や「網が湖に投げ下ろされる」というたとえをお話しになりました。その三つのたとえのうち二つ目のについて話したいと思います。

このイエスのたとえ話によると、私たちは、人間としてさらにイエスの信者として、自分たちの命の良い真珠を探した方が良いでしょう。しかし、このイエスの話は「物を探す」と言う話ではなくて最も貴重なことについて話していると思います。たくさんのお宝があれば、私たちは幸せになれるでしょうか。それを買って、しばらくはその物を使って幸せになったような気がします。そのうちにもっと新しい物が欲しくなってきます。それを手に入れても、またしばらくすると別の物が欲しくなるのではないのでしょうか。

そのイエスの良い真珠とは何でしょうか。私にとって、感謝の心だと感じます。私は、四年間フィリピンに住んだことがあります。あそこの子供たちは本当に貧しい子供たちです。フィリピンの子供たちは、どんなにみすぼらしい物だったとしても、お父さん、お母さん、兄弟姉妹、友達が一生懸命に働いて買ってくれた物を必ず大感謝します。ここに私たちの良い真珠があり、幸せの秘訣があると思います。幸せになるための良い真珠は、わずかな物に込められたお父さん、お母さん、兄弟姉妹、友達の愛や 神様の愛を感じ取り、それに大感謝する心なのです。感謝の心さえあれば、わずかな物しかなかったとしても、私たちは幸せに生きられるのです。

真珠のために全財産を捨てて、それを自分のものとするように、イエスとの出会いを大切にすることでしょう。神の愛に飢え渴いている者にとって、その出会いはこのうえもない喜びだと感じます。

